

平成 2 8 年度
国の施策・予算に対する要望

平成 2 8 年 1 月

熊 本 市

日頃から、熊本市政の推進につきましては、格別のご支援、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

本市は、九州の中央に位置する交流拠点都市であり、明治以来、九州における行政の中心として各種の官庁が置かれ、発展してきた都市です。また、熊本城をはじめとする歴史的遺産、あるいは日本一を誇ります地下水に代表されますように、歴史・文化、自然環境に恵まれた都市でもあります。

このような熊本の豊かな地域特性を生かしたまちづくりを進め、熊本の魅力を積極的に発信していくことで、「誰もが憧れる上質な生活都市くまもと」を実現していきたいと考えております。

国におかれましては、人口急減・超高齢化という我が国が直面する大きな課題に対し政府一体となって取り組み、各地域がそれぞれの特長を活かした自律的で持続的な社会を創生できるよう、まち・ひと・しごと創生本部を設置され、今後も戦略的に取り組まれていくことと存じます。

本市といたしましても、地方版総合戦略の策定を目指しており、スピード感を持って対応してまいりたいと考えております。また、圏域の中心都市として、国・県、近隣市町村と連携を図りながら、熊本県全体、さらには九州の一体的な発展をけん引し、貢献できる都市づくりに邁進してまいります。

このような本市の状況を踏まえ、来年度特に重点施策とする事項について、平成28年度国の予算編成及び施策の展開にあたり、何卒、特段のご配慮をお願い申し上げます。

平成28年1月

熊本市長 大 西 一 史

目 次

[文部科学省関係]

1 . 空調設備設置の促進	P 1
---------------	-----

[国土交通省関係]

2 . 桜町地区における再開発関連事業予算の確保	P 3
--------------------------	-----

3 . 熊本西環状線の整備に必要な予算確保	P 5
-----------------------	-----

空調設備設置の促進

【文部科学省】

熊本市の夏は連日、真夏日や猛暑日を記録し、児童生徒が一日の大半を過ごす教室内の温度は、学習する環境としては極めて厳しい状況にあることに加え、PM2.5や黄砂のほか、昨今では、阿蘇山噴火活動に伴う降灰が熊本市内に及ぶことも懸念されるなど暑い時期に窓を開けられない状況です。

このような中、児童・生徒の学習しやすい教育環境を整備するうえで小中学校に空調設備を設置することは、本市において極めて緊急度の高い事業として位置付けております。そこで、今年度からは空調設備の設計に取り組んでおり、平成28年度には中学校、その後小学校へ空調設備を設置することとしています。

つきましては、本市がこうした空調設備の設置に対して、計画的に取り組むことができるよう、次のとおり要望いたします。

一、平成28年度より導入を開始する学校施設への空調設備設置事業に対して、特段の配慮をいただきたい。

【参考：整備計画】

(単位:百万円)

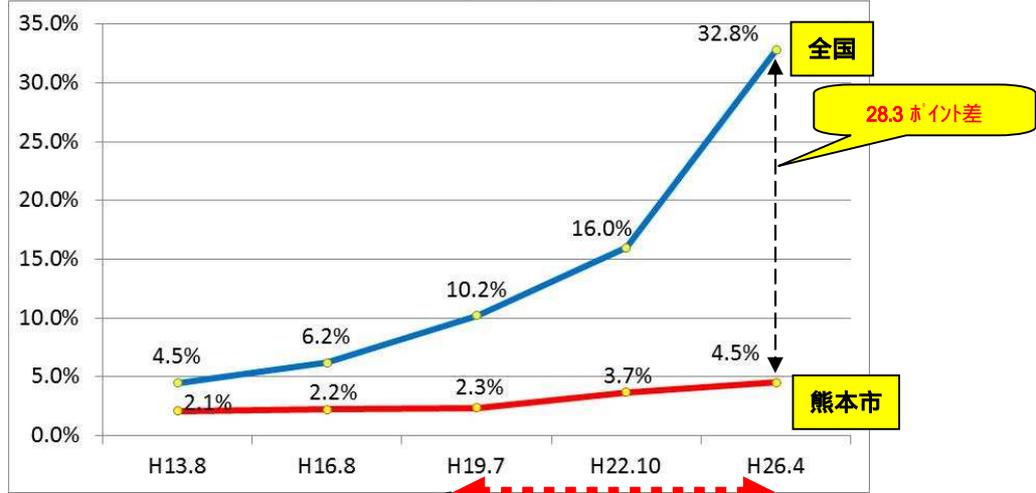
	H28	H29	H30	計
設計費()	39	50	46	135
工事・管理費	1,367	2,022	1,907	5,296
事業費合計	1,406	2,072	1,953	5,431
国庫補助金	469	691	651	1,810

教室数 幼稚園38教室 小学校1,499教室 中学校675教室 計2,212教室

国庫補助金 現行の補助率(3分の1)で算定

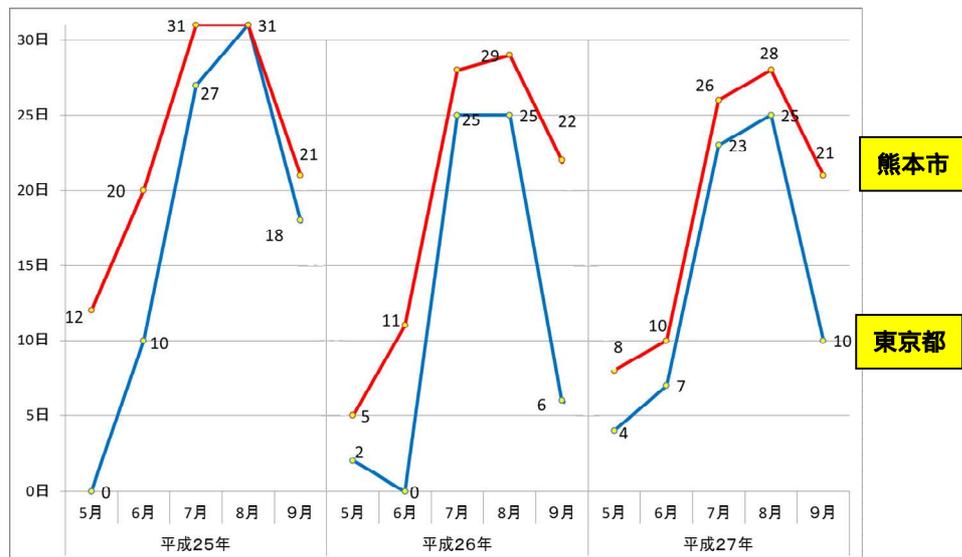
()設計費は補助申請年度にて計上。

< 市立小・中学校の普通教室空調(冷房)設備設置率の推移 >



H19 ~ H25 年度は、小中学校施設の耐震化工事を重点的に実施 (100%完了)

< 過去3年間の「不快指数 80 以上」の日数 >

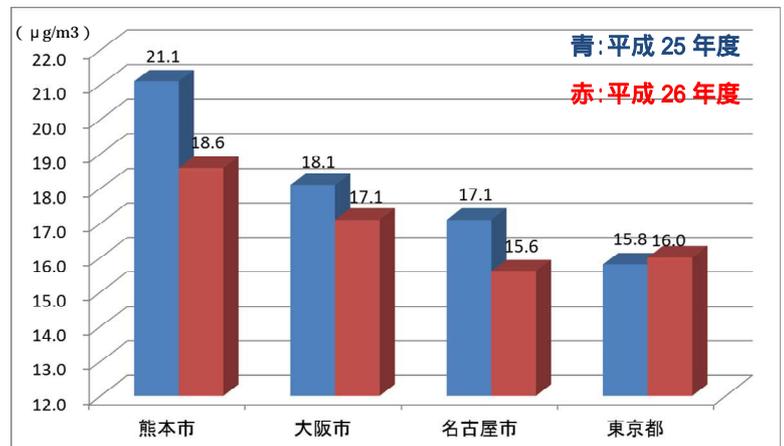


不快指数は気温と湿度で算定され、80 を超えるとほとんどの人が不快であるといわれている。

< 阿蘇山噴火活動に伴う降灰 >



< 微小粒子状物質 (PM2.5) 年度平均比較 >



桜町地区における再開発関連予算の確保

【国土交通省】

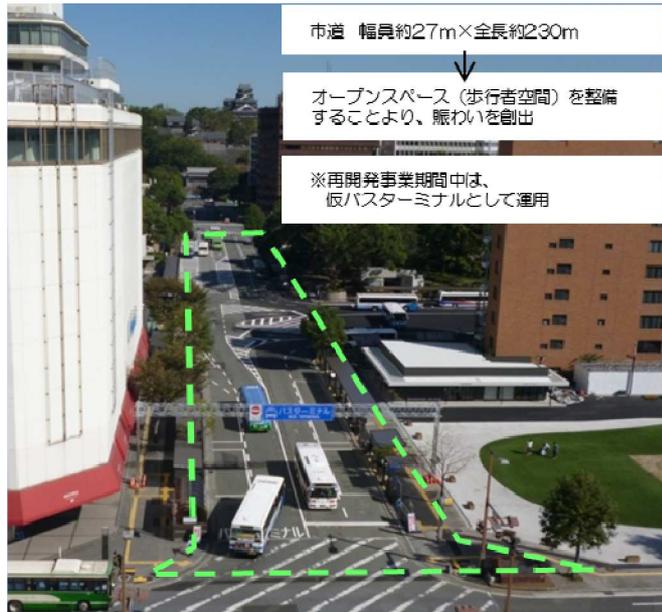
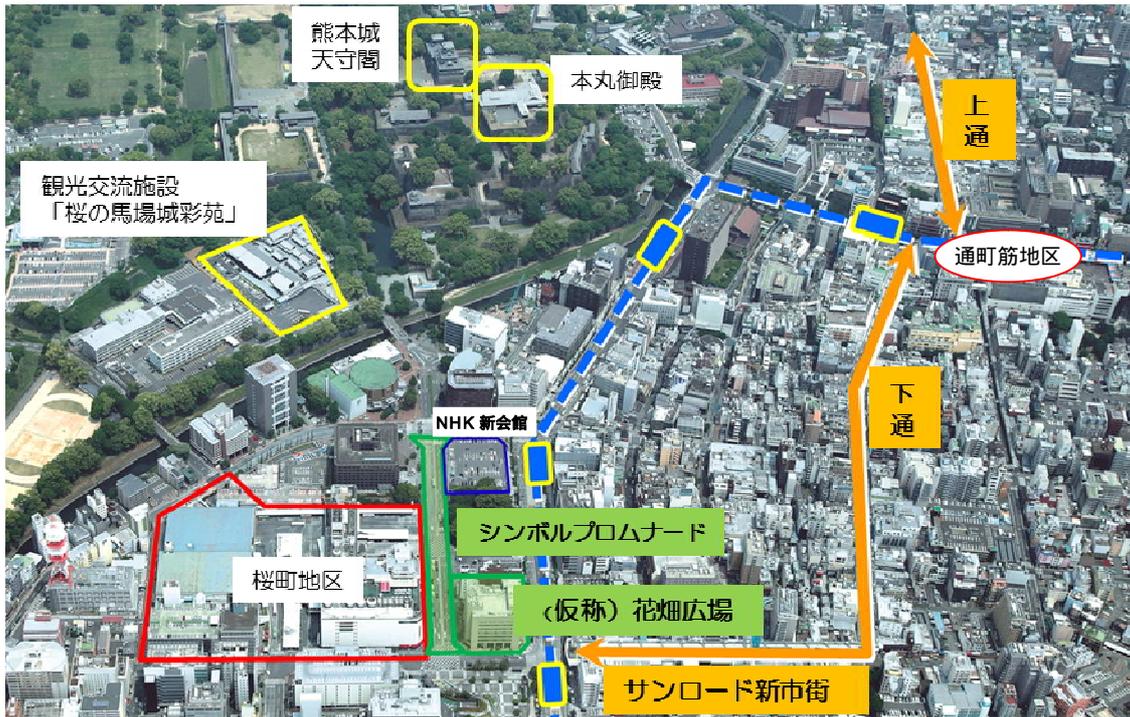
桜町地区は、熊本城下に広がる中心市街地の2つの核の一つであり、一日6千台が発着する熊本最大のバスターミナルや百貨店等の商業施設、ホテル等が集積しているが、昭和44年に整備されたものであり、施設の老朽化、耐震化やバリアフリーへの対応等の課題も多く、拠点性も低下しています。

そこで、これらの都市機能を市街地再開発事業（会社施行）によって更新を図るとともに、本市が新たに2,300人規模の大規模ホールと大小会議室からなる交流施設を整備し、併せて隣接の4車線道路を歩行者中心のオープンスペースに転換することによって、熊本城から中心市街地へつなぐ当該地区を新たな賑わいと交流の核として再形成することとしています。

これらの事業は、本市における地方創生、すなわち都市のコンパクト化と公共交通網の再構築、広域的な機能連携を図り、「ひと」と「しごと」の好循環を支える活力ある「まち」の形成において最も重要な事業であることから、次のとおり要望いたします。

- 一、 桜町地区における市街地再開発事業、都市開発資金及び暮らし・にぎわい再生事業に必要な予算を確保していただきたい。
- 一、 特に、来年度から工事に着手する予定である桜町地区市街地再開発事業及び（仮称）熊本城ホール整備事業については、特段のご配慮をいただきたい。

< 桜町地区関連事業 >



【桜町地区第一種市街地再開発事業】
 施行者：熊本桜町再開発会社
 整備内容：複合施設整備
 （主要用途：商業、公益施設、バスターミナル、ホテル等）
 事業施行期間：平成27年度～平成31年度
 全体事業費：約699億円
 施行者への補助金：約126億円
 （国 約63億円、市 約63億円）
 都市開発資金貸付金：約66億円
 （国 約33億円、市 約33億円）

【H28 必要額】
 施行者への補助金：34.2億円
 （国 17.1億円、市 17.1億円）
 都市開発資金貸付金：30.0億円
 （国 15.0億円、市 15.0億円）

【桜町・花畑地区暮らし・にぎわい再生事業】
 施行者：熊本市
 整備内容：(仮称)熊本城ホール整備
 シンボルプロムナード整備
 (仮称)花畑広場整備
 事業施行期間：平成25年度～平成31年度
 全体事業費：約331億円
 （うち国 約75億円）

【H28 必要額】
 (仮称)熊本城ホール整備費 50.3億円
 （うち 国費 20.1億円）

熊本西環状線の整備に必要な予算確保

【国土交通省】

約100万人の生活圏を形成する熊本都市圏内での共通課題になっております慢性的な交通渋滞の緩和を図るためには、熊本都市圏の骨格となります2環状1放射の幹線道路網の整備が重要であり、特に都心部への交通の流入を分散させる熊本環状道路の整備を急がなければなりません。

このうち東側では、国道57号熊本東バイパス、国道3号熊本北バイパスが昨年3月までに全線で開通しており、整備進捗にあわせて、熊本都市圏においては、全国シェア1位のトマトの出荷額が毎年増加するとともに、自動車部品、半導体等の九州の牽引産業の集積による出荷額の増加や、海外輸出も進んでくるなど、ストック効果による経済の好循環が生まれています。

本市では、九州縦貫自動車道が市東部を縦貫しており、九州縦貫自動車道から市中心部への交通アクセスに課題があります。そこで、市内の渋滞緩和、九州縦貫自動車道と市中心部へのアクセス性向上を目指し熊本西環状線の整備を鋭意進めております。また、中心部での再開発事業、熊本駅周辺の整備、中心市街地と地域拠点を結ぶ公共交通の充実など、多核連携のコンパクトシティを目指したまちづくりを進めているところであり、この熊本西環状線の整備は九州縦貫自動車道とのアクセス性向上による本市の拠点性の向上と各事業との連携による更なる経済の好循環の創出、さらには災害時における救助や支援活動など円滑な危機管理体制の構築に必要な不可欠な道路であり一日も早い完成が望まれています。

つきましては、熊本西環状線の整備が円滑に実施できるよう、次のとおり要望いたします。

- 一、熊本環状道路を構成する熊本西環状線の整備に必要な道路予算を確保していただきたい。
- 一、特に、花園工区の平成28年度の供用に向けて、特段のご配慮をいただきたい。

2環状11放射道路網

熊本西環状線

H28 必要額
事業費 55.4 億円
国費 28.8 億円

平均旅行速度は3大都市圏を除く
政令市中ワースト1位
[H22 道路交通センサス]



九州管内の主要渋滞箇所数では、
熊本県は309箇所。九州でワースト1位
熊本県の中でも全体の約6割にあたる
181箇所が熊本市内に集中
[H24 渋滞対策協議会]



花園工区
平成28年度末
供用予定

花園工区
約4km

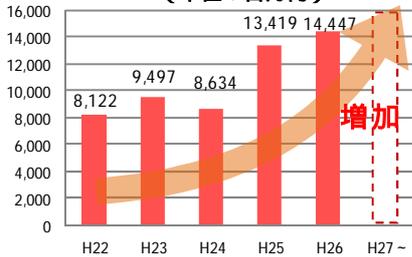
池上工区
約5km

砂原工区
約3km

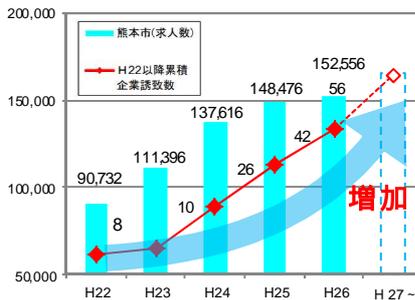
農業・産業の振興

農産物では「トマト」や「すいか」が全国1位
自動車、半導体など九州の牽引産業が多く立地
企業立地の更なる加速と雇用増加に期待
熊本港での海外輸出は大幅増加

熊本港における輸出額の推移 (単位: 百万円)



熊本市への企業進出件数と求人数推移



熊本西環状線



熊本西環状線下硯川高架橋



花園インター線ランプ部